

平成22年度宮古群島病害虫発生予報第11号(2月予報)

2月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	50	20	40
平 年 並	30	40	40
低い(少ない)	20	40	20

(平成23年1月28日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	17.8	20.4	15.7	138.2	77.3

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

2月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

春植えにおけるメイチュウ類の防除対策

- a 1月のカンシャシンクイハマキ合成性フェロモントラップによる、トラップ当たり日当たり誘殺虫数は9.5頭(前年9.5頭、平年13.1頭)と平年並であった。
- b 植付時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を施用する。
- c 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。

コガネムシ類幼虫(アオドウガネ・ケブカアカチャコガネ)の防除対策

- a 巡回調査の結果、一部の圃場でコガネムシ類幼虫による立枯れがみられた。
- b ケブカアカチャコガネは、耕耘(ロータリー、砕土)によって株元にいる幼虫の75%程度を殺傷できることから、収穫後は速やかに耕耘し、幼虫密度の低減を図る。
- c ケブカアカチャコガネ幼虫は、3月下旬頃から地中深く潜るため、耕耘による防除は本種が地表近くにいた3月中旬までに行うのが効果的である。

収穫後圃場における害虫の防除対策

- a 収穫後の残存株には、サキシマカンシャクシコメツキ幼虫やコガネムシ類などの土壌害虫が寄生している。
- b カンシャコバナネナガカメムシの卵や越冬成虫は、収穫時に株から落下して地表や株元に残り、残存株から萌芽した幼茎などで増殖する。
- c 次作のこれら害虫の密度を低減するため、収穫後すぐに耕耘する。

2 マンゴー

炭疽病の防除対策

- a 1月中旬の調査の結果、一部圃地で発生がみられた。
- b 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、今後袋がけ前までの防除対策が重要である。
- c 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- d 花芽分化～開花時期には、予防効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。

チャノキイロアザミウマの防除対策

- a 1月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭(前年0頭、平年0.6頭)であった。
- b 開花期以降は本種が増加する可能性があるので、早期発見・早期防除に努める。
- c 混合花の新葉や不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
- d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

3 かぼちゃ

モザイク病の防除対策

- a 1月下旬の調査の結果、一部の圃場で多発生がみられ、媒介虫であるアブラムシ類の葉当たり成虫数は1.4頭(前月0.2頭)であった。
- b 着果前の発病株は、抜き取って圃場外に持ち出し処分する。また健全株への感染を防ぐため、抜き取りは他の管理作業の後に行う。
- c 本病の感染源およびアブラムシ類の発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
- d アブラムシ類の防除を徹底する。

うどんこ病の防除対策

- a 1月下旬の調査の結果、発病葉率は64.8%(前年69.2%)、発病度は22.1(前年31.5)であった。
- b 株元の老葉を除去し、透光・通風をよくする。
- c 着果後は防除を徹底し、収穫時までできるだけ多くの健全葉を確保する。

細菌性病害の防除対策

- a 1月下旬の調査の結果、斑点細菌病の発病葉率は4.3%(前年0%)、発病度は1.1(前年0)であった。
- b 株元の老葉を除去し、透光・通風をよくする。
- c 今後の気象条件により、斑点細菌病、褐斑細菌病、葉柄腐敗症などの細菌性病害の発生が助長される場合があるので、防風垣は収穫時まで残し、予防散布と初期防除に努める。

4 とうがん(施設)

ミナミキイロアザミウマの防除対策

- a 1月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭(前年0頭)であった。
- b 発生源となる不要な下葉や、圃場内外の雑草を除去する。
- c 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。
- d 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

5 にがうり(施設)

うどんこ病の防除対策

- a 1月下旬の調査の結果、発病葉率は4.0%(前年6.8%)、発病度は1.0(前年1.7)であった。
- b 被害葉は除去し、生育に応じて古葉などを摘葉して、透光通風をよくする。
- c 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。